

一人ひとりの健康づくりから

稲美町を教育民生常任委員会が視察

誰もが元気で長生きしたいと、願っている。しかし年を重ねるに伴って身体が衰え、病気になったり寝込んでしまうようになります。

そこで、町民が元気で生き甲斐を持って暮らしていけるよう、「健康づくり」に取り組んでいる兵庫県稲美町に、教育民生常任委員会（五名全吉員）で行政視察しました。

稲美町の健康課題（背景）

- ① 平均寿命が県平均以下。
- ② 高血圧、糖尿病等の生活習慣病の受診率が高い。
- ③ 国民健康保険の一人当たり医療費が高い。
- ④ 肥満者が多い。（壮年期の四〜五人に一人）
- ⑤ 運動習慣者が少ない。

健康支援員制度を導入

このような背景から、国保のモデル事業で「健康支援員制度」を導入して、町を挙げて取り組んでいる。

具体的には、一地区（自治会）からおおむね二名程度の健康支援員（無報酬、任期三年・再任はしない）を推薦してもらおう。その人は――

- 一年目……自分自身の健康づくりをする。
- 二年目……家族・隣保の健康づくりをする。
- 三年目……地域（自治会）の健康づくりをする。



稲美町役場で「健康支援員制度」について研修

このように三年計画で、指導者を育成し、健康づくりに取り組まれていた。

現在、六十自治会の内、活動自治会は約五割である。

活動を通して、評価項目は、健康習慣指数、医療費など六項目。まだ始まったばかりではあるが、徐々に成果が上がっている、健康づくりを熱く語るられた古谷町長が印象的だった。

本町では、高齢者を対象に「ぼかぼか教室」が現在十八地区で開催されており、成果を上げている。

（稲美町は、本町より少し若い層を対象にして健康づくりを実施）。

高齢化率約四〇割の本町。将来を見据えて、健康づくりを体系的に取り組む必要性を感じ、議員は、その一翼を担う決意をしました。

稲美町プロフィール

人口〓三万二千五百人、面積〓約三五平方キロ、なだらかな田園地帯に開けた振興住宅地（流入者四四割、高齢化率一九割）。神戸市に三十分、四方を市に囲まれ、裕福な町。



ボランティアの協力で運営

治療に園芸療法

関西労災病院

尼崎市にある、関西労災病院「ホスピタルパーク（いぶきの園）」を視察した。

この病院（ベット数五百床）では、全国でも初めてという、治療に園芸療法を取り入れておられた。

病院敷地内の公園に、花や樹木が植えられ、遊歩道、ベンチ、ちよっとしたりハビリの設備などが整備されていた。



病院の公園で園芸療法を

いぶきの園は、園芸療法士を中心に、ボランティア（全体で約九十人・いぶきの園には三十人）で運営されていたのが目を引きました。

視察した時にも、三人の女性ボランティアが花の管理を楽しそうにされていました。

一方、我が町にある日野病院。日野川に面して、環境もよく、護岸等を活用して、園芸療法ならぬ自然療法をお金を掛けないで、できないものかと、治療のことは良くわからないが、素人考えで感じました。

あとがき

財政再建の中で、この冬の少ないことを願っておられる方も多いかと思えます。

一方で降るべき時に降らないと、春先の農作業が心配な方もおられることでしょう。

議会、たよりの編集委員会は、議会の活性化の一つとして、議員の発言や、委員会の活動状況を伝えるために、解りやすい紙面づくりに努力しました。

ご意見やご感想をお寄せください。

委員 佐々木 求